

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	運動療育スクールjump(放課後等デイサービス)					公表日	2026年 2月 28日
	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	1	1	狭いが、用具の置き場、状況に応じて公園や体育館など、広い場所で活動をするなど、工夫している。	広い場所の方が運動しやすいが、学校や自宅への送迎や職員、送迎車の駐車スペースなど全てにおいて条件の良い物件がない。適当な物件があっても経費がかかりすぎるため経営的に困難。基準は満たした広さで運営しています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12			担当を決めて対応している。基準以上の人員を配置しており、個別での対応など、臨機応変に行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	1		階段が不安な場合は付添うなど、必要な場面では介助や声掛けなどの支援を行っている。	賃貸のため、完全バリアフリーは難しい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12			毎日の拭き掃除や道具の消毒も行っている。室内の整理整頓は職員が常に心がけている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	2		体調不良や個別に休憩が必要な場合は、休憩室に案内し、その場合もスタッフの目が届くように配慮している。気持ちが崩れた場合などは、子供の状況に応じて気持ちが落ち着くまで安心して過ごせる空間を提供している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	12			ミーティングではKJ法を使用することもあり、すべての職員が参画できるように工夫している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		1		自己評価表により意向を把握する機会を設け、職員に周知しているが、物理的な問題や経費的な問題もあり、すべてが改善できるわけではない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12			事業所ミーティングを開催し、職員が意見を述べやすい環境づくりを心がけている。会議では、どのようにすれば改善できるかのプロセスまでみんなで考え実行し、その振り返りの場も設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	1	2		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11		1	案内を受けた研修は掲示し誰でも参加しやすいようにしている。毎月、セルフチェックシートにて意見等を発信できる機会を設けている。	研修を受講する機会は提供しているが、積極的な参加があるわけではない。よって、すべての職員の資質向上に繋がってはいない。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11		1	プログラムを作成し、ホームページに公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11		1		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11		1	様子の記入用紙を準備し、記載してもらうことですべての職員の意見を聞きながら計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		2	計画書は鍵付きのカルテ棚に保管してあるが、全職員がいつでも確認できる状況にしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11		1	日頃の様子を共有し、相談しやすい関係づくりを目指している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11		1	個々にプログラムを考え、それをスタッフみんなで行ってみることで改善し、より良い活動プログラムになるように努めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11		1	個々にプログラムを考え、それをスタッフみんなで行ってみることで改善し、より良い活動プログラムになるように努めている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		2	計画通りに支援が進まないこともあるが、チームで協力して行う運動と、鉄棒や跳び箱などの個別運動の両方を行っている。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12			支援前に行なっている。	下校が早い日など、支援前に職員全員が揃わず、口頭で確認出来ない日もあるが、モバイルアプリなどを使い、役割分担や伝達事項などを共有できるようにしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11		1	子供の様子の記録を残しており、その日に出動していないスタッフも情報を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12			記録用紙記入と、日報で共有し、検証、改善に努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11		1	定期的なモニタリングと、必要に応じて見直しを適宜行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	12				
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11		1	選択できる場面では子供の意見をまず聞くことに努めている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11		1	児童発達管理責任者と、日頃からその子の支援によくかかわっている職員が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	1	1		医療、教育との連携は課題である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11		1		保護者からしか情報を得ることができないことが多い。学校や留守家庭学級での様子は個人情報保護の観点からなかなか知ることが出来ていない。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	11		1		保育所や幼稚園から直接情報提供はされない場合が多いが、相談支援員さんを通して知ることが出来る。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	1	3	相談支援員さんを通して情報提供をしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10	1	1	子ども発達支援部会などで講演を聞く機会がある。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	4	地域の公園やお出かけ先などで時々交流する機会がある。	平日の活動が主になるため、地域の他の子どもと計画的に一緒に活動することは難しい。長期休暇も保護者は仕事をしているため、地域の子どもが校区外へ移動して活動に参加することは困難である。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	3	3	主に子ども発達支援部会に参加し、部会が企画する研修等にも参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11		1	保護者用アプリで活動の写真も添付し、様子を伝えている。送迎時には上手くいった支援の共有などを行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	1	1	家族や相談支援員さんを含めた会議を行なっている。家族等の参加できる研修の情報提供等はアプリ内で行っている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11		1		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11		1		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11		1		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11		1	送迎時や電話などで、相談に応じている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	2	4		父母の会活動は現在ではできていない。今後、イベントなどを通して自然と保護者同士で交流が持てる場を提供できると良いとは思っている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11		1		

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	11		1	アプリのお知らせ機能で活動の内容や連絡事項、避難訓練の様子等を伝えている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12			カルテは鍵付きの棚に収納している。パソコンや職員が使用しているアプリでは、ログインIDとパスワードを設定している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12			絵カードなどを使い支援をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	3	4		コロナ以降事業所の行事やイベントを行っていないので、今後は検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11		1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11		1		避難訓練は行なっている。今後は送迎中を指定した訓練も行っていく予定。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11		1	利用児童のその日の様子などを保護者から申し送りを受け、職員にも周知している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11		1	保護者から情報を得ている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11		1	年間の安全計画を立案し、長期休暇前にはお出かけ先の下見に行き、危険個所の把握等をしている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11		1	訓練の様子を施設のお知らせページに掲載している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12			ヒヤリハットミーティングを行い、事業所内で共有することで再発防止につとめ、職員の意識も高めるようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11		1	社外研修に参加したり、社内での伝達研修等も行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	11		1	現時点では身体拘束を行なう必要がある児童はいないが、身体拘束防止マニュアル作成し周知している。		